

# 京都産業大学 世界問題研究所

ニューズレター 2024. 3 Vol.11

NEWS LETTER

CONTENTS

## 活動記録

- (1) 「学問と政治の視点から見る中国国内の日本学研究」  
中国社会科学院 教授 王 鍵 2
- (2) 「ゲノム編集時代の科学コミュニケーション」  
生命科学部 准教授 川上 雅弘 3
- (3) 「地域課題の包括的な解決策である  
グリーンインフラの産学協働教育・研究」  
生命科学部 准教授 西田 貴明 4

- (4) 「若泉文書から考える若泉敬先生と沖縄返還交渉」  
朝日新聞 編集委員 藤田 直央 5
- (5) 上海社会科学院と本学で国際ワークショップを  
開催 6

## その他

2023 年度研究会開催内容／研究所メンバー 11



## 【活動記録】

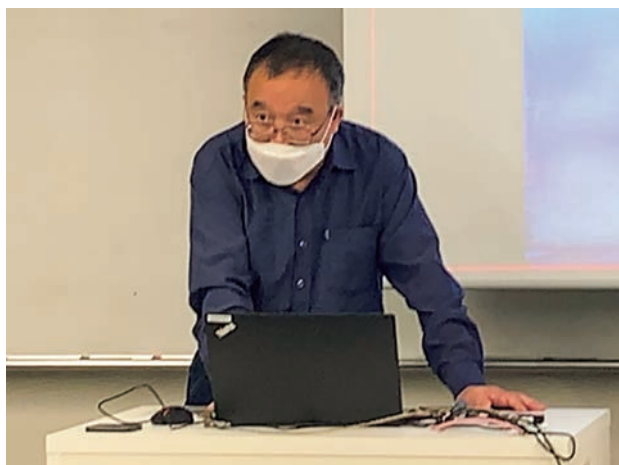
# (1) 「学問と政治の視点から見る中国国内の日本学研究」

報告者	王 鍵（中国社会科学院 教授）
開催場所	京都産業大学 サギタリウス館 203 教室+オンライン（Teams）
開催日時	2022 年 11 月 30 日（水） 16:30 ～ 18:00

### 研究会概要

世界問題研究所は本年度の第 6 回定例研究会を 2022 年 11 月 30 日にハイブリッド方式で開催した。今回の報告は、① 14 時 45 分～中谷 真憲 所員（本学法学部 教授）、② 16 時 30 分～王 鍵 先生（中国社会科学院 教授）の 2 部制をとり、王先生には「学問と政治の視点から見る中国国内の日本学研究」と題するご講演をいただいた。

中国の日本史研究の専門家である王先生は、学問と政治の視点から日本と西洋の学問に対する考え方を示したうえで、近代から現在に至るまでの中国における日本学の研究状況を学術的に解説された。示唆に富むお話を頂戴したのち、参加者と活発な意見交換が行われ、講演に対する理解を深めることができた。



報告中の王教授



議論の様子

## 【活動記録】

# (2) 「ゲノム編集時代の科学コミュニケーション」

報告者	川上 雅弘 (生命科学部 准教授)
開催場所	京都産業大学 11 号館 11201 教室+オンライン (Teams)
開催日時	2023 年 1 月 25 日 (水) 15:00 ~ 17:00

### 研究会概要

世界問題研究所では、2023 年 1 月 25 日 (水) に、本学生命科学部産業生命科学科の川上 雅弘 先生をお招きし、ハイブリッド方式による研究会を実施した。御報告のテーマは「ゲノム編集時代の科学コミュニケーション」である。

御報告では、川上先生の自己紹介の後、科学コミュニケーションの歴史と概念、ELSI (Ethical, Legal and Social Issues) の取り組み、ゲノム編集の発展と現状に関する諸論点、ヒトー動物キメラ研

究に関するワークショップについての御研究などが取り上げられた。御報告を通じて、高度に発展する生命科学の知見と社会との関わりを考えるための様々なヒントを提供していただいた。

御報告のあとは、科学技術と倫理、大学教育と科学コミュニケーション、宗教とゲノム編集技術、科学リテラシーの育成のあり方、ヒト胚細胞の改変と次世代への影響など、多様な論点について活発な議論が行われた。



報告中の川上准教授



議論の様子

## 【活動記録】

## (3) 「地域課題の包括的な解決策である グリーンインフラの産学協働教育・研究」

報告者	西田 貴明（生命科学部 准教授）
開催場所	京都産業大学 12 号館 12201 教室+オンライン（Teams）
開催日時	2023 年 7 月 26 日（水） 15:00 ～ 17:00

### 研究会概要

世界問題研究所では、2023 年 7 月 26 日（水）に、本学生命科学部産業生命科学科の西田 貴明 先生をお招きし、ハイブリッド方式による研究会を実施した。御報告のテーマは「地域課題の包括的な解決策であるグリーンインフラの産学協働教育・研究」である。

御報告では、西田先生の自己紹介の後、近年わが国でも注目される「グリーンインフラ（GI）」についてお話しいただいた。グリーンインフラは「自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与するインフラや土地利用計画」を表す政策概念として定義されるが、環境保全はもとより気候変動への対応、あるいは生態系を活かした防災・減災策、地域活性化など多方面への応用が進んでいる。御報告を通じて、欧米と我が国におけるグリーンインフラ政策の動向、推進のための体制づくり、教育現場での活用などを教えて

いただきその豊かな可能性が浮かび上がってきた。社会科学と自然科学の知見の融合による社会課題解決事例としても豊富な政策事例を教えていただき大変刺激的であった。

御報告のあとは、所員および学生を含む外部参加者との議論を行った。専門の異なる所員がそれぞれの立場から熱心に発言し、生物多様性と文化的多様性の関連、西洋と日本における自然観の相違、伝統的取組との連続性をどう考えるか等の文化論的関心からのコメントが多くなされたほか、国際条約上の位置づけや途上国での取組といった政治経済的視座からの熱心な質疑も続き非常に充実した時間となった。また政策的関心としては生態系サービスといった概念との関係、地域住民のモチベーションの維持策、生態系よりも人工構造物の方に政策的力点が置かれぬか、GIは必ず有用性と結びつくべきなのか、などの質問が寄せられ、文理の垣根を超えた活発な意見交換がなされた。



報告中の西田准教授



議論の様子

## 【活動記録】

# (4) 「若泉文書から考える若泉敬先生と沖縄返還交渉」

報告者	藤田 直央（朝日新聞 編集委員）
開催場所	京都産業大学 真理館 SR304 教室+オンライン（Teams）
開催日時	2023年10月17日（火）16:45～18:30

### 研究会概要

世界問題研究所では、2023年10月17日（火）に、朝日新聞編集委員の藤田 直央 氏をお招きし、ハイブリッド方式による研究会を実施した。御報告のテーマは「若泉文書から考える若泉敬先生と沖縄返還交渉」である。

御報告では、藤田氏の自己紹介の後、若泉敬先生の略歴にもふれながら、沖縄返還に関わる若泉文

書が戦後外交史にとっていかなる意義をもつのか、明らかにされた。加えて、若泉先生の人となりについても紹介がなされ、そこに示された同先生の誠実なお人柄は非常に強い印象を与えるものであった。

研究会には所員のみならず、対面、オンライン合わせて23名の本学教職員が参加し、御報告後は出席者との間で活発な質疑がなされた。



報告中の藤田氏



議論の様子

## 【活動記録】

## (5) 上海社会科学院と本学で国際ワークショップを開催

世界問題研究所は、本学の交流協定機関でもある上海社会科学院と共同で、2023年11月4日と12月8日に国際ワークショップを開催した。上海社会科学院と共同で開催する国際ワークショップは、2021年12月以来のことである。前回はオンラインでの開催であったが、今回は、両国でのコロナ禍による社会的制約が緩和されつつあることもあり、念願の対面開催が実現した。

当研究所では、2020年度より「科学技術の発展と人類社会の変化」をテーマとして掲げ、文理融合・分野横断という視点から新たなアプローチを試み、様々な研究活動を行ってきた。今回の国際ワークショップの開催も、上記のテーマに関する研究活動の具体的展開の一つとなる。現在世界においては生成AIやビッグデータを活用した情報技術など、デ

ジタル分野での技術が急速に発展しているが、そのような新しいテクノロジーの利用及び規制に関する国際的な枠組みも構築されつつあるところである。当研究所のテーマとして掲げている科学技術と人類社会の関係、とりわけ科学技術と人類の幸福及び平和の関係について考える上でも意義深いワークショップとなった。

上海でのワークショップには、本学及び世界問題研究所から岑 智偉 所員（経済学部 教授）、中谷 真憲 所員（法学部 教授）、荻野 晃大 教授（情報理工学部）、志賀 浄邦 所員（文化学部 教授）が参加し、それぞれの専門分野から研究報告・討論を行った。開会に先立って程 福財 研究員（上海社会科学院国際合作処長）より歓迎の辞が述べられた後、中谷 真憲 所員（本学法学部 教授）より、開会の挨拶と



上海での国際ワークショップの様子

本学世界問題研究所の紹介とこれまでの歩みについての説明があった。

上海社会科学院からは3名の研究者による報告があった。包 蕾萍 研究員は「デジタル社会の構築：価値志向と政策実践」、計 海慶 研究員は「人工知能時代に調和のとれた人間と機械の関係を構築する」、史 習隼 副研究員は「身体の苦しみと魂の喜び—キリスト教における楽観的思考」と題する研究報告を行った。本学からは、岩本 誠吾 所長の「人工知能（AI）の利用と規制—よりよい社会を目指して—（日本の場合）」と題する研究報告を中谷所員

が代読したのち、荻野教授が「Well-being と感性—人を幸せにするための情報技術：感性工学」、志賀所員が「人は快・不快をどのように知覚するのか？—仏教思想から見た Well-being と幸福—」というタイトルで研究報告を行った。人工知能（AI）から、デジタル社会、感性工学、宗教に至るまで発表テーマは多岐にわたったが、ワークショップが終了した時点で、実は多くの報告に通底していた「新しい時代における人間のウェルビーイング（幸福）」という新たなテーマが浮かび上がってきた。



歓迎の辞を述べる程国際合作処長



挨拶する中谷所員と通訳する岑所員



研究報告中の荻野教授



研究報告中の志賀所員



参加者全員による集合写真

上海でのワークショップの成果を受け、12月8日には本学真理館SR301教室にて、「技術進歩と未来の社会」というテーマの下、再び上海社会科学院と共同で国際ワークショップを開催した。上海社会科学院からは計5名の研究者が来学し、ワークショップに参加した。岩本 誠吾 世界問題研究所長（法学部 教授）の開会挨拶に続き、上海社会科学院の王 振 副院長が「中国デジタル化・グリーン化協

同発展の動向と政策建設」と題する研究報告を行った。岩本所長は「人工知能（AI）の利用と規制—よりよい社会を目指して—日本の場合」と題する研究報告を、同学院情報通信研究所の丁 波涛 副所長は「中国データファクター市場の現状と展望」と題する研究報告を行った。本学の荻野教授は上海で行った発表の概要について報告した。いずれの報告も中国・日本・世界におけるAIや科学技術の革新に関



研究報告中の王副院長



研究報告中の岩本所長



する最新の動向を踏まえたもので、やがて到来すると言われていた未来社会（Society 5.0）やシンギュラリティ（技術的特異点）について考える上でも大いに参考になった。

これら二度のワークショップを通じて、参加者は科学技術の進歩と人類社会の変化に関する最新の知見と洞察を共有することができた。同時に、両機

関の研究者同士の草の根的な対話と交流を通じて、二つの機関の友好関係と学術交流は一層の進展をみた。今後も世界問題研究所と上海社会科学院は相互に連携しつつ、科学技術の進展に関する世界の最新の動向を見据えながら共同研究を進めていく所存である。



研究報告中の丁副所長



研究報告中の荻野教授



本学でのワークショップの様子

## 国際ワークショップ『科学技術進歩と人間社会』 プログラム

日時：2023年11月4日（土）13:00～18:15

場所：上海社会科学院

開会挨拶：程 福財（上海社会科学院国際合作処 処長）

挨拶および京都産業大学世界問題研究所の紹介：中谷 真憲（所員・法学部 教授）

研究報告（1）：「人工知能（AI）の利用と規制—よりよい社会を目指して—（日本の場合）」

岩本 誠吾（所長・法学部 客員教授）※中谷所員代読

研究報告（2）：「デジタル社会の構築：価値志向と政策実践」

包 蕾萍（上海社会科学院社会所 副所長・研究員）

研究報告（3）：「Well-being と感性一人を幸せにするための情報技術：感性工学」

荻野 晃大（情報理工学部 教授）

研究報告（4）：「人工知能時代に調和のとれた人間と機械の関係を構築する」

計 海慶（上海社会科学院哲学研究所 研究員）

研究報告（5）：「人は快・不快をどのように知覚するのか？—仏教思想から見た Well-being と幸福—」

志賀 浄邦（所員・文化学部 教授）

研究報告（6）：「身体の苦しみと魂の喜び—キリスト教における楽観的思考」

史 習隼（上海社会科学院宗教所 副研究員）

パネルディスカッション

謝 辞：志賀 浄邦（所員・文化学部 教授）

閉会挨拶：程 福財（上海社会科学院国際合作処 処長）

司 会：劉 阿明（上海社会科学院国際問題研究所 副所長）

中谷 真憲（所員・法学部 教授）

逐次通訳：岑 智偉（所員・経済学部 教授）ほか

## 国際ワークショップ『技術進歩と未来の社会』 プログラム

日時：2023年12月8日（金）14:30～17:20

場所：京都産業大学 真理館 SR301 教室

開会挨拶（1）：岩本 誠吾（所長・法学部 客員教授）

開会挨拶（2）：王 振（上海社会科学院 副院長）

研究報告（1）：「中国デジタル化・グリーン化協同発展の動向と政策建設」

王 振（上海社会科学院 副院長）

研究報告（2）：「人工知能（AI）の利用と規制—よりよい社会を目指して—日本の場合」

岩本 誠吾（所長・法学部 客員教授）

研究報告（3）：「中国データファクター市場の現状と展望」

丁 波涛（上海社会科学院情報通信研究所 副所長）

研究報告（4）：「Well-being と感性一人を幸せにするための情報技術：感性工学」

荻野 晃大（情報理工学部 教授）

ディスカッション

総 括：岩本 誠吾（所長・法学部 客員教授）

司 会：中谷 真憲（所員・法学部 教授）

逐次通訳：岑 智偉（所員・経済学部 教授）

## 【その他】

### 《2023 年度 研究会開催内容》

#### 定例研究会

第 1 回	前プロジェクトの総括と現プロジェクトの展望 (1)	2023 年 4 月 26 日
第 2 回	前プロジェクトの総括と現プロジェクトの展望 (2)	2023 年 5 月 31 日
第 3 回	岑 智偉 (所員・経済学部 教授) 「歴史的技術変化と大分岐」	2023 年 6 月 28 日
第 4 回	西田 貴明 (生命科学部 准教授) 「地域課題の包括的な解決策であるグリーンインフラの産学協働教育・研究」	2023 年 7 月 26 日
第 5 回	日中研究交流に向けた予備研究会	2023 年 9 月 27 日
第 6 回	藤田 直央 (朝日新聞 編集委員) 「若泉文書から考える若泉敬先生と沖縄返還交渉」	2023 年 10 月 17 日
第 7 回	岩本 誠吾 (所長・法学部 客員教授) 「国際社会における『法の支配』の意義—日本の場合—」 川合 全弘 (所員・法学部 教授) 「全体戦争とは何か」	2023 年 12 月 27 日
第 8 回	三瓶 由紀 (生命科学部 准教授) 「地域における人と自然の関係—農的活動が野生生物に与える影響—」	2024 年 1 月 24 日

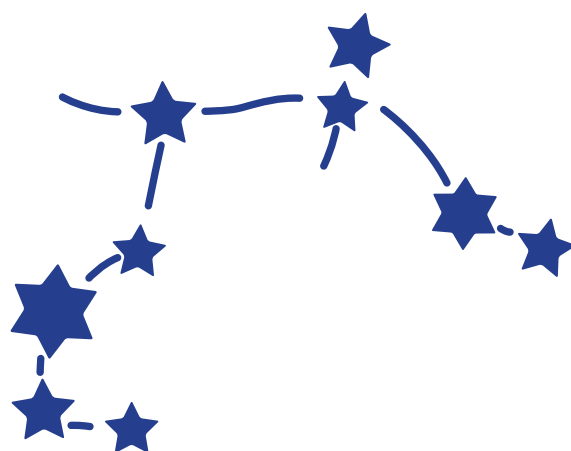
#### 国際学術交流

京都産業大学世界問題研究所・上海社会科学院 国際ワークショップ	
「科学技術進歩と人間社会」	2023 年 11 月 4 日
「技術進歩と未来の社会」	2023 年 12 月 8 日

#### 《研究所メンバー》

岩本 誠吾	所長・法学部 客員教授
川合 全弘	法学部 教授
久保 秀雄	法学部 教授
志賀 浄邦	文化学部 教授
岑 智偉	経済学部 教授
中谷 真憲	法学部 教授
耳野 健二	現代社会学部 教授





---

**京都産業大学世界問題研究所 ニュースレター 第11号 2024年3月**

発行 京都産業大学世界問題研究所 京都市北区上賀茂本山 TEL (075) 705-1468

編集 京都産業大学世界問題研究所所員 久保 秀雄／同事務局 藤本 興子

印刷 中西印刷株式会社

---